

平成 26 年度行政評価 市民参加ワークショップ 提案のまとめ

地域防災力の強化について

意見の最後の（ ）は関連する委員会のヒアリング等における論点の番号

市民への意識啓発の取組

- ・「死なないこと、ケガをしないことが大切」という言葉を、キャッチフレーズとして市民全体で広める、共有する。(意見 10)
- ・エリアメールを使った意識啓発をする(毎月1日、年に1回など、意識を高めるようなメールを配信。携帯電話会社や機種によってエリアメールが届かない人のチェックにも)(質問 3)
- ・黄色いハンカチ全戸支給制度。被災時の安全確認結果を掲示するハンカチ(のようなもの)を市が全戸支給することで、市民全体で防災への意識を高めたい。また、「防災」という言葉ではなく「黄色いハンカチ」という別のキーワードにすることで市民が取り組みやすい工夫をしたい。(意見 10)
- ・今回の豪雨のような災害があった直後に、地域ごとの具体的な被害の内容をチラシや広報さっぽろなどで知らせ、防災に関心を持ってもらう。(意見 13)
- ・個人の意識が大事。防災に限らず、環境など大きな視点から市民が札幌の事を広く考えていくような意識啓発が大事。
- ・自助の意識を高めるため、防災の取組や課題を市民が話し合う全市的な意見交流の場を、継続的に設ける。(意見 1、7)

防災関連資料を効果的に配布・活用する

- ・防災に関するパンフレットを、普段の生活で足を運ぶようなイベントやショッピングセンターに置くなど配布場所を工夫し、もっと市民の手に渡るようにする。(意見 17)
- ・自助の意識を高めるために、防災マップやマニュアルを全市民に届ける(全戸配布や広報さっぽろの活用など)(意見 1、13)
- ・「見る」から「使える」資料に。防災の資料を配るだけではダメ。町会役員対象ではなく、市民一人ひとりを対象とした、行政の資料を使いこなすための防災講座や出前説明会を実施する。(意見 1、10、14、17)

自助の備えを促すための支援

- ・防災グッズを市民が購入しやすい仕組みをつくる。地域では、町内会などを通して注文シートをまわす。
- ・自助の責任範囲はどこまでか、自助の最低限の備えとして、必要な物品などの情報提供が市からほしい。(意見 1、7)

子ども達への防災教育の充実

- ・子どもたちへの防災意識を高める取組をする。教育活動の一環として、授業で行う。地域では人気アニメと防災 DVD の両方の上映会をする。
- ・防災教材を学校で定期的に使ってもらうようにしたり、地域の防災訓練に子どもと一緒に取り組むなど、子どもたちに防災に興味を持ってもらえる工夫が必要。(追加質問 6)

(裏面へ)

若い世代に向けた、地域の防災活動への関心を高める取組

- ・ 共助の意識を高めるため、日頃のつながりづくりが大切。例えば子どもと親が参加する行事を地域で開き、若い世代に意識を持ってもらうなどの取組も考えられる。こうした地域の活動に対して、市ができる支援メニューを示してほしい。(質問 2,追加質問 6)
- ・ 出前講座をもっとPRして利用を促す。例えば、10分程度の分かりやすいメニュー(防災コント、寸劇など)を設定し、若い人や子ども達にも興味を持ってもらう。(質問 2)
- ・ 「防災ガール」などの、防災の問題に関心が低い世代が「自分ごと」として取り組むことができる様な面白いアイデアや取組を市が支援する。(質問 2)

災害時の市と地域間の情報伝達方法の明確化

- ・ 市から地域(地域組織や携帯端末など)への情報の流れを明確にし、災害時の細かな情報発信ができるようにする(食料や水の届く時期やライフラインの情報など、きめ細かな情報が重要で、安心にも繋がる)。
- ・ 地域の情報伝達体制をつくるためにも、市の防災専門課をつくり、情報発信をしっかりとしてもらう。
- ・ 避難した家に旗を立てるなど、災害時の地域や個人の状況を市に伝える工夫が必要。

避難訓練に多くの市民や様々な機関を巻き込む取組

- ・ 札幌全体で行う訓練の日を設ける。「190万防災祭り」。平日に開催し学校や企業も巻き込む。(追加質問 11)
- ・ 全員が避難所訓練に参加できるように、市が音頭をとって、強化週間・月間を設け、市内の様々な組織が訓練を行い、参加しやすい時間帯、場所に参加できるようにする。(追加質問 11)
- ・ 市から地域への情報の流し方、地域で情報を受けた後の動き方について、実際に訓練し動けるように備える。(意見 1)

危険箇所や避難場所の周知

- ・ 住んでいる地域の危険性を、もっと具体的に情報提供をして、実情に合ったアドバイスをする。
- ・ 避難場所の周知が大切。観光客にもわかりやすいようインフォメーションボードにも入れる。地域でも老人クラブの会合などを学校で開いて周知する。

防災の取組を促す条例や制度づくり

- ・ 条例など防災の取組への強制力も必要。また、優れた取り組みをした企業等へのインセンティブを与える制度づくりを考える。(追加質問 7、意見 2)

札幌の魅力を高める都心のまちづくりについて

意見の最後の（ ）は関連する委員会のヒアリング等における論点の番号

誰もが安心して快適に歩けるようにするための整備や取組

- ・高齢者にとってバリアフリーな都心部に（体の不自由な人やお子さん連れにも）
（意見 12）
- ・高齢者を考えたまちづくりが大切。地下空間を活用しやすいよう、エレベーターやサインを工夫するなど、高齢者の移動しやすさに配慮する。（意見 12）
- ・高齢者、障がい者がもっと都心にアクセスしやすく、迷わずに安心して歩ける都心に（やさしい案内表示の見直し、停車スポット整備、観光客にも効果がある）。（意見 12）
- ・歩車分離の横断歩道を増やすなど、歩行者の安全性を高め、都心の魅力アップにつなげる。
- ・都心にふさわしいマナーのある自転車利用で、安心して歩けるまちに（啓発活動、自転車専用道路（駅前通り）の整備、駐輪場整備）
- ・東豊線への連絡通路が長く不便なため、動く歩道にする。

都心の回遊性を高めるための交通環境の充実

- ・観光客や市民が都心を回遊しやすくするため、安く、便利に使える交通環境の整備を進める（安価な循環バス、路面電車の活用や延伸、観光バスの駐車場設置など）
- ・地下通路の延伸、市電の延伸、循環バスの路線増など、都心の回遊性を高めたい。
- ・都心へのアクセスを便利に安く。駐車、駐輪スペースの拡大も。都心内のアクセスを便利に（駐輪場）

歴史的建造物の活用と魅力向上のための取組

- ・新しいものをつくるというより、歴史的なものを残し、つなぎ、時間を経ると価値が出てくる都心に（時計台を生かす。かでの2.7のアイヌ歴史館や清華亭も）。札幌には大きな博物館がないが、ハコモノをつくるのではなく、都心を回遊して歴史を感じられるように。
- ・まちの歴史を伝えるデザイン、建造物をうけつぐ。今ある魅力もPRしていく。
（追加質問 6）
- ・歴史的建造物や観光スポットで良い写真が撮れるように、民間のビルなどに働きかけて、写真撮影ポイントを増やす（都心のガッカリポイントをなくする）
- ・時計台について、もっと緑豊かな場所への移転を検討できないか（北大構内など）

文化機能の充実

- ・歌舞伎、能、雅楽など、多世代が文化を楽しめる場を整備する（条例を見直し、夜11時ごろまでイベントができるようになると良い）
- ・都心で利用できる図書館機能を充実して、都心の魅力をアップする（市民交流複合施設に入る図書館は中央図書館並みの規模がほしい）

（裏面へ）

公園や広場の特色づくりと、魅力を PR する取組

- ・広場や拠点、その場所ごとの特色づくりを。人が集えて、音楽や展示などアマチュアの市民も小発表ができるような空間活用になるとよい。(質問 12)
- ・魅力的なスポットを増やし、人が行き交うようにする(駅前通りの地上部を歩いて楽しめるにぎわいのある通りにする、大通公園を使いやすく改善する、子どもが水を楽しめる創成川公園にする、狸小路の西側を活性化するなど)
- ・創成川公園をはじめ、新しい資源をもっと PR しよう(都心の中で水辺に親しめる緑がある、といったウリが市民に伝わっていないので)

案内標示など、情報発信の充実

- ・その日のイベントや施設情報が一目で分かり、情報が更新できるような、観光客に親切で分かりやすい案内看板を札幌駅に設ける。(追加質問 11)
- ・都心での災害時の避難情報や、日頃の歩行者向けの情報などの発信を充実させる。

拠点をつなぐ休憩空間づくり

- ・都心の拠点をつなぐ、小さな休憩できる空間があると良い(1人でも気楽に休めたり、オフィスに勤める人は弁当が食べられたり、リーズナブルな食とも連動している)

イベントの開催支援

- ・企業や住民主体のイベントを開催しやすくする(広場や道路などの空間を利用しやすく、市でも広報の支援を)(質問 12)

都心全体に賑わいを広げる

- ・駅前通だけに都心のにぎわいが集中しないよう、まちの機能を東側の地区にも広げる。

郊外との連携

- ・財政面を含め、郊外のことでも忘れないで(連携含め)(追加質問 16)